

CSM で特定の時間が経過すると発生する不具合について

2012 年 9 月 TAC Case Collection より移行
2010 年 8 月 更新
2008 年 2 月 初版

目次

- [主な問題](#)
- [解決策](#)

主な問題

CSM 内部で使用しているタイマーの不具合により、一定時間経過すると発生する不具合が複数報告されています。

解決策

[CSCth52331 : CSM: Active / Active collision after 828 days](#)

standby CSM が起動後 828 日経過すると、Heartbeat メッセージを正常に処理できず、Active になってしまい、2 秒間程度 Active/Active となってしまう不具合。

4.2(14)、4.3(5) 以降にて修正済み。修正前のバージョンを使用中の場合、CSM のアップグレードをご検討ください。

[CSCte28717 : CSM - stops creating new sticky entries after extended uptime](#)

sticky timeout を通常よりも大きな値に設定した状態で 470 日程度経過すると、新規 sticky entry を生成できないという不具合。

4.2(14)、4.3(5) 以降にて修正済み。修正前のバージョンを使用中の場合、CSM のアップグレードをご検討ください。

[CSCsg94630 : sticky issue when CSM up for longer than 497 days](#)

480 日程度経過すると sticky が正常に動作しなくなるという不具合。

4.1(9)、4.2(7) 以降にて修正済み。修正前のバージョンを使用中の場合、CSM のアップグレードをご検討ください。

[CSCsk43903 : CSM goes active-active over 828 days](#)

828 日程度経過すると冗長構成の CSM が両方とも active になるという不具合。

4.1(10)、4.2(8) 以降にて修正済み。修正前のバージョンを使用中の場合、CSM のアップグレードをご検討ください。

[CSCso08858 : CSM : HTTP probe flapped after running long time](#)

828 日程度の周期で、tcp/http probe が 18 分間 down してしまう不具合。

VxWorks 側の問題であり、CSM の修正で回避することができないため、Closed(C) となり、修正は行われていません。

回避策は、828 日周期で一時的に probe の設定を外す、もしくは icmp 等、他 probe を使用することとなります。

変更履歴

2010年8月：[CSCth52331](#)、[CSCte28717](#)に関する内容を新規追加